

史跡池上曾根遺跡を未来に伝えるために —史跡池上曾根遺跡再整備計画— <概要版>

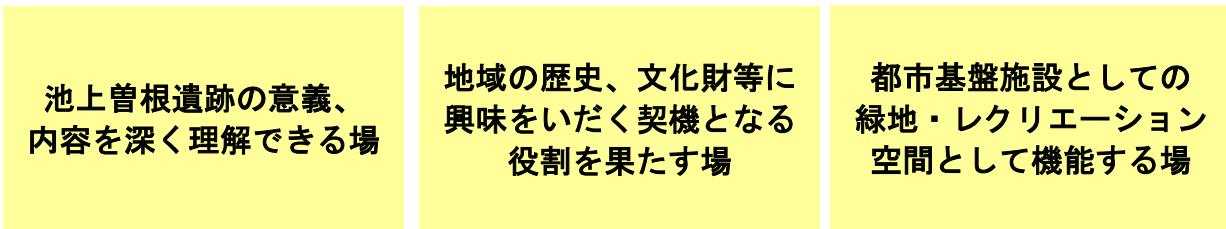
第1章 計画策定にあたって

■史跡池上曾根遺跡整備計画基本構想

- 基本理念 -

国指定史跡池上曾根遺跡を保存、復元整備とともに、都市化が進展する地域に広がる歴史公園として都市計画との整合性を図り、都市機能の充実に努め、魅力ある史跡公園として多くの人々に親しまれ活用される計画とする。

- 基本方針 -



■史跡池上曾根遺跡整備基本設計



第2章 現状と課題

■史跡の本質的価値について

弥生時代を通じて営まれた全国有数の大規模環濠集落

1. 環濠が二重に巡る大規模な集落

二重の環濠で南北 450m 以上、東西 320m 以上を囲む複合的な構造の集落

2. 集落中心に位置する大型掘立柱建物と大型削り抜き井戸

池上曾根弥生集落の希少性と特殊性を端的に示す遺構

3. 祭祀、生産、生活の場を意識した集落の空間構成

最盛期には集落内の空間を、「祭祀域」・「生産域」・「居住域」・「墓域」などの役割で区分

4. 活発な生産活動と流通拠点

土器、石器、木器、金属器等多種多様な遺物が豊富に出土し、その遺物の特徴から、他地域との活発な交流と生産活動が行われていたことがわかる

5. いまなお地下に眠る、多くの遺構、遺物

今なお多くの重要な遺構・遺物が地下に眠っており、今後の調査等で新たな発見がなされる可能性が高い

6. 弥生時代研究における画期的な成果

世論も巻き込む考古学ブームを生み出し、弥生時代の集落研究に大きく寄与

■本質的価値をどのように伝えてきたか

整備から 20 年経過し、史跡池上曾根遺跡の本質的価値をどのように伝えることができたか、史跡公園が果たしてきた役割とはどのようなものであるか、史跡池上曾根遺跡整備計画基本構想における基本方針に沿ってまとめる。

池上曾根遺跡の意義、内容を深く理解できる場

池上曾根遺跡の価値を伝えるために復元施設や施設は重要であり、永く維持しておく必要がある。また、それらを活用するための体制づくりも必要である。

地域の歴史、文化財等に興味をいだく契機となる役割を果たす場

遺跡や歴史に興味がある・ないにかかわらず、地域の歴史に対しての興味や理解を引き出すための仕掛けづくりが必要である。

都市基盤施設としての緑地・レクリエーション空間として機能する場

緑地や、休憩できる場所、施設を増やすことで、より市民が集い憩える空間を創出する必要がある。

第3章 再整備および第2期 第2次整備の目指すべき姿

■本質的価値を伝えるために必要なこと

1. 復元建物の維持

管理しやすい状態にし、適切な状態を維持していく

2. 池上曾根遺跡を学ぶために

現在の体験学習を維持する。より一層来館者にその価値を伝えるように努める

3. 弥生の空間と憩いの空間の両立

遺跡の本質的価値に気づく仕掛けづくり、日常的に周辺住民に利用される憩いの空間づくり、長時間滞在できる仕組み作りが必要

4. 情報発信の推進

新しい手法を取り入れながら情報発信を行うことが必要

5. 管理・運営

運営メンバーの減少、高齢化により維持管理に手が回らない
協力会の体制強化、新たな体制の構築が必要

